

ISO関連季刊情報誌(年4回発行)

CONTENTS

01 新年のご挨拶

- 02 特集
- 03 ISOの現場浸透に役立つ「タートル図」(2)

04 News&Topics

- ▶ 世界のISO認証件数が発表
- ▶ ISO 22000:新セミナー案内
- > ISCC認証(国際持続可能性カーボン認証)開始
- ▶ Information: ISO/IEC 27001:2022改訂について

05 審査の現場から

> お客様紹介

(株式会社神山鉄工所)

▶ 連載よみもの「審査員の心理」(環境編) 「運用管理(1)」

06 連載よみもの

▶ 審査員リレーエッセイ 「健康第一で」

(審査員 藪田 勝)

▶ 環境とISO14001 「TCFD提言による気候関連報告」

07 お客様からのお便り

- ▶「カクシン・センイ・カンパニー」 (丸井織物株式会社)
- ▶「北海道から、暮らしの豊かさを届けたい」 (株式会社フイッシュランド 眼鏡事業部加工センター)

08 研修コースのご案内

- > ちょっといっぷく
- 研修コース案内
- > 受講生からのお便り

(株式会社ニチレイフレッシュプロセス)

インターテック・サーティフィケーション株式会社

発行 大阪事務所

◆バックナンバーは、弊社ホームページにてご覧いただけます。

https://ba.intertek-jpn.com/

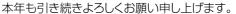


新年のご挨拶

代表取締役 木村 朋聡

年頭にあたり謹んでご挨拶を申し上げます。

はじめに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により影響を受けられている皆さま、地震や台風・豪雨などの自然災害により被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。長引くコロナ禍の収束、並びに一日も早い復旧復興を祈念いたします。





2020年の新型コロナウイルス感染症の拡大から、はや3年近く経過いたしました。インターテック・サーティフィケーションでは、新しいビジネスの様式や、テレワークなど仕事の形が変化する中、ISO認証サービスにおきましても、リモート(オンライン)審査の試みやオンラインセミナーの導入、プロセスのデジタル化など、新たなテクノロジーを取り入れながら、皆さまと共に進化をしてきました。2022年度におきましても、継続するコロナウイルス感染症の影響による審査スケジュールや審査員の変更などにご協力いただき大変ありがとうございました。

私達インターテックグループは、そのパーパス(存在意義)を第一に掲げている会社で、「世の中に、品質、安全とサステナビリティをもたらす」ことを会社の目的にしております。このパーパスを達成するために、私達は、あらゆる組織の方々から信頼され、品質にかかわる全てを任せていただけるパートナーとなり、皆さまの課題やお困りを解決するための様々なお手伝いをしていきたいと考えております。

インターテック・サーティフィケーションでは、品質、環境、労働安全衛生、情報セキュリティ、食品安全、農場管理など、お客様の持続的発展をサポートする多くの認証サービスを提供してきました。そして、世の中の移り変わりと共に、上記に加え、新たな認証が必要とされています。特に昨今、社会的関心の高まりとともに、サステナビリティへ取り組む組織をサポートする認証へのニーズが高まっています。インターテックでは、このご要望にお応えするべく、従来から提供している温室効果ガス排出量検証、森林認証、海洋管理協議会認証などに加え、国際持続可能性カーボン認証、GRS、RCSなどオーガニックやリサイクルなどの観点で制定された繊維関連産業向けテキスタイルエクスチェンジ認証、ホテルや飲食関連・商業施設などの安全衛生審査や室内空気環境品質検査認証など、新たなサービスを昨年より順次提供開始しています。

また、インターテックでは、これらの認証だけにとどまらず、お客様のサプライチェーンの監査や、目まぐるしく進化する世界各国の規格への対応や、製品、商品の試験、製品販売ネットワークの品質確認など、グループが掲げる総合品質保証(Total Quality Assured)を提供する体制をとっております。インターテックグループの社員一同も、これらのサービスの複合的な提供により、品質保証において最も信頼されるパートナーとして、お客様へ、品質、安全とサステナビリティをもたらすことで、お客様の事業の発展をサポートする努力を続けていきたいと思います。

2023年が、皆さまと一緒に飛躍の年となりますように祈念いたしまして、 私の新年のご挨拶とさせていだきます。引き続き、皆さまとご家族のご健康を 心よりお祈り申し上げます。



現場浸透に役立つ 「タートル図」(2)

角子 裕司

前回は、「タートル図」を使い、業務プロセスの見える 化とISO9001の要求事項との繋がりについて解説いたし ました。今回も引き続きISOの現場浸透に役立てるヒント をお伝えいたします。



タートル図による目標の管理(6.2)

ISOの目標管理において、全社目標や部門目標の設

特集

前号に続き、タートル図を活用したISOマネジメントシステムへの取り組みについて取り上げます。今号ではさらに具体的な事例を交えて解説しておりますので、前号の内容と合わせて活性化のご参考にしていただけましたら幸いです。

定がありますが、更にそれらを細分化した個人目標を設定されている組織もあります。この個人目標を設定する際、「タートル図」を活用し、業務プロセスの要素ごとに個人目標を設定し、行動計画を月次管理することで、上位の目標達成に繋がっていきます。そして、この個人目標の達成状況を、人事考課の評価基準に採用することで、現場作業者のISO活動に対する関心度も高まっていくことが期待できます。



マートル図による変更の管理(856)

「タートル図」で示す業務プロセスの要素(人財、設備、 材料、方法の4M)が、通常の条件から変化した時に、不 良や災害が発生する可能性があります。この変化の

作成年月日		〇年〇月〇日	Τ	作成者				00 00							
	担当部門	製造部門		担当プロセス				脱脂洗浄工程							
業務プロスの要素	伸ょり捶	行動計画	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	自己評価
設備資源	・設備メンテナンスによる稼働率向上 (○%向上)	・メーカー説明会参加・定期点検の実施		*	*						*				
人的資源	・必要資格の取得 (公害防止管理者:水質 1種)	達成状況 ・試験準備(講習参加) ・試験受験	+				*		★		þ	印	は、	ゴ	ートの ールか 開始時
方法手順	・多能工化候補者の育 成	達成状況 ・手順書の見直し ・〇〇さんへのOJT教育 達成状況			4			*	+						る!
評価指標	生産処理能力の向上 (〇%達成)	・生産管理システムの活用 (生産計画・変更管理の徹底)	—											*	
	上司の	達成状況													



3H	初めて	変 更	久しぶり					
4M	(Hajimete)	(Henkou)	(H isashiburi)					
人財	新人(新卒・中途・パー	配置転換、急な応援作業	職場復帰者による作業					
(M an)	ト・派遣等)の単独作業		(長期休暇、在宅勤務明け)					
設備	新規設備・金型・治具等	修理・仕様変更	遊休設備の再稼働					
(M achine)	を使用した作業	プログラムの変更						
材料	新規外注先への依頼	材料の仕様変更	過去の仕入先へ発注					
(M aterial)	新規購入材料の使用	メーカー、仕入先変更	長期保管材料の使用					
方法	初めての製造・検査・管	製造・検査・管理方法の変	過去の製造・検査・管理方					
(M ethod)	理方法による作業	更	法の実施					

主なタイミングは、初めて実施する時(生産立上がり)、変更した時(製造条件変更)、久しぶりに実施した時(再稼働)の3Hが考えられます。これら(4M×3H)の場面に対し、自組織にとって大きなリスクとして想定されるものについて、事前対応することが、マネジメントシステムの基本と言えます。



タートル図による内部監査(9.2)

内部監査で使用するチェックリストについて、ISO取得後間もない組織では、規格要求事項ごとに、確認事項を列記し、現場作業者に質問をする場合があります。しかし、現場作業者にとっては、業務プロセスとの繋がりをイメージしにくいので、「タートル図」を活用し、業務プロセスの「あるべき姿」を基本とした現場専用チェックリストの作成をお勧めいたします。業務プロセスのあるべき姿と現状とのギャップから、指摘内容や改善策が監査時に明確化され、効果的な内部監査の実施に繋がります。



タートル図による人財育成(7.2)

新しい事を学び始める時、基本は「守」⇒「破」⇒「離」 の3ステップで人は成長します。決められた手順をただ 守る段階(守)から、自分で改善・改良を行い(破)、新 たな技術を生み出す段階(離)にステップアップする際に、仕事の面白さを感じられるものです。



若手人財を育成する際、「タートル図」で、業務プロセスの全体像(あるべき姿)を俯瞰的に伝えることで、効率よく「守」の段階からステップアップさせることができ、やりがいを与え、定着化にも期待が持てます。



ISOの現場浸透が効果的運用の鍵

「タートル図」は、業務プロセスの見える化ツールですが、上手に活用すれば、現場作業者のISOへの理解を深め、関心を高める効果があり、現場浸透に役立つツールになり得ます。是非とも「タートル図」を有効活用し、ISOに全ての現場作業者を巻き込み、「誰一人取り残さないISO活動」の推進をお勧めいたします。

筆者紹介

角子 裕司 (かくしゅうじ)

鉄鋼関連機関にて環境分野に関する調査・分析・品質管理業務等に従事。独立後、各種マネジメントシステムの構築および運用支援サービスを提供、実績多数。現在、中小規模製造業の経営体質強化支援を中心に活動。兵庫県在住。







世界のISO認証件数が発表

ISO(国際標準化機構)は、2021年末時点 での世界のISOマネジメントシステム規格の認 証件数について集計・調査した"ISO Survey 2021"を公表しました。従来のISO9001(品 質)、ISO14001(環境)、ISO45001(労働安 全衛生)、ISO/IEC27001(情報セキュリティ)、 ISO22000(食品安全)、ISO13485(医療機 器)、ISO50001(エネルギー)、ISO20000-1 (ITサービス)、ISO37001(贈収賄防止)、 ISO22301(事業継続)、ISO39001(道路交 通安全)、ISO28000(サプライチェーンセ キュリティ)に今回新たに4規格を加えた16 規格が対象でその認証数すべてに増加がみ られました。従来の12規格の認証総数も前 年比23%増と大幅に増加し、増加要因とし て、特にISO45001、ISO9001、ISO14001で の中国の認証数増加と今回の調査への参加 が増えたことによる件数の大幅な伸びが挙げ られています。

規格別認証数では、ISO9001は1,077,884件(前年比18%増)で、国別では日本は4位の40,834件、ISO14001は420,433件(前年比21%増)で、日本は2位の21,976件でした。

その他、ISO27001は6,587件で日本は2位、ISO22000は1,377件で4位、ISO45001は1,685件でした。この調査の詳細については、ISOのホームページでご覧いただけます。(https://www.iso.org/the-iso-survey.html)

ISO 22000:新セミナー案内

|SO 22000:2018(食品安全マネジメントシステム)の新コースについてご案内いたします。 1)「|SO 22000:2018 規格解釈 - 日コー

フリ ISO 22000:2018 規格解釈 - 日コース」: 規格要求事項を逐条解説するとともに、 FSMS構築のポイントについても分かりやすく説明いたします。

2)「ISO 22000:2018 内部監査員養成コース(2日間)」:規格要求事項の概要と内部監査の要点を2日で学んでいただけるコースです。ケーススタディを通した実践的な内容となっています。

昨秋の第一弾開催はオンラインにて開催しましたが、次回は対面形式を予定しています。詳細は、弊社ホームページ、または、インターテックアカデミー&トレーニング(TEL: 03-4510-2767)までお気軽にお問い合せください。

ISCC 認証 (国際持続可能性 カーボン認証) 開始

この度、SDGs・サステナビリ ティの観点から、持続可能な ものづくりへの貢献を目指して、

ISCC 認証(国際持続可能性カーボン認証) を開始いたしました。

ISCC PLUS/ISCC EU/ISCC CORSIA 認 証(国際持続可能性カーボン認証)とは、世 界初のバイオマス、バイオエネルギーの国際 持続可能性カーボン認証制度です。持続可 能な製造の実施、及びグローバルサプライ チェーンにおけるあらゆる種類のバイオマス 利用やサーキュラー原材料の使用を促進し、 サプライチェーンの透明性が確保され、原材 料が持続可能であることを証明することがで きます。世界的な地球保護への意識の高ま りとともに、サステナビリティの重要性も増して きており、ますます関心が高まっています。 ご興味がございましたら、弊社サステナビリティ アシュアランス部門(Email:info.ba-japan @intertek.com)までお気軽にお問い合わ せください。

INFORMATION

~規格改訂情報~

ISO/IEC 27001:2022の改訂について

~情報セキュリティ,サイバーセキュリティ,プライバシー保護ー情報セキュリティマネジメントシステムー要求事項~

ISO/IEC 27001:2022の発行状況についてお知らせいたします。2022年10月25日に ISO/IEC 27001:2022(情報セキュリティ,サイバーセキュリティ,プライバシー保護ー情報セキュリティマネジメントシステムー要求事項)が正式に発行されました。

英語版・対訳版は、日本規格協会のサイトにて販売が開始されております。

https://webdesk.jsa.or.jp/books/W11M0090/index/?bunsyo_id=ISO%2FIEC+27001%3A2022

ISO/IEC 27001:2022 の変更点について

- •一般に、必須条項の変更は比較的軽微です。
- •いくつかのサブ条項の追加/修正を含む多くの構造変更があります。
- •要約すると、次の句には構造的な変更があります。
- 第4.2項c)利害関係者のニーズと期待は、ISMSによって対処されます。
- 第6条(現在は第6.3項を含む)

- 第 9.2 条には 2 つのサブ条項があります。
- 第 9.3 条には 3 つのサブ条項があります。
- 第10条が再編されました。
- •附属書A(規定)情報セキュリティ, サイバーセキュリティ及び プライバシー保護ー情報セキュリティ管理策
- ー附属書では、構造、番号付け、および新しい管理策の組み 込みが大幅に変更されています。

認証の移行期限につきましては、2022年10月31日から3年間の2025年10月31日までになります。2013年版をご取得の組織様におかれましては、期限内に移行審査を受審いただく必要があります。

なお、認定機関によるインターテックの規格移行審査が完了 しましたら、弊社で認証取得いただいている組織様へ移行プロ セスについてご案内させていただきます。

本件についてのお問い合わせは、弊社東京事務所 ISMS認 証部(03-3669-7408/gordon.moir@intertek.com)までお願いいたします。



<<**<**



株式会社神山鉄工所 様

(ISO 9001:2015、ISO 14001:2015認証登録)

〔取材者〕審查員 美濃 英雄

神山鉄工所様は、ねじ業界の草分けとして自らねじの製造 機械から製造し、様々なねじを世に送り続けてこられてきたねじ メーカーで、2019年に創業100周年を迎えられました。大正8 年(1919年)の創業以来、「技術開発」を基本理念にモノづくり を追求され、ねじの企画から設計・製造まで一貫した生産シス テムにて、現在は主に、ドリルねじとタッピンねじ、タップタイト ねじを製造販売されています。

2007年に、企業体質の改善・強化を目的にISO9001・14001 を認証取得され、2017年にインターテックへ審査機関変更さ れました。前回の審査では、「ネジの先端加工技術に絶えず 腐心され、更に進化したドリル用ネジを開発されている」、「技 術開発課では、製品の刃先を作る金型のリサイクル(摩耗した 金型を放電加工機で再加工し、再使用)を、実施されている」 なども、評価されています。

近年ではRoHS指令やREACH規則に対応した表面処理を 採用した、環境にやさしいグリーンパーツとしてのねじ製品の



本計(大阪府東大阪市)

ラインアップを強化し、環境 保護にも積極的に取り組ま れています。

同社は経営理念として "技術開発"のほか"人の 和""利潤の追求"も掲げ られています。これからも、 お客様の要望に応えるべく 産学連携、設備導入、人材 教育を通して、製品づくり に取り組まれていかれると のことで、同社のさらなる発 展に期待です。



型 经

https://www.kamiyama-tekkosho.co.jp/

審査員の心理

第35回 (環境編)

「運用管理(1)」

環境主任審查員 大村 敏天

Toshio Omura

規格の"8.1 運用の計画及び管理"は、環境管理の実務活動 に直結した重要な要求事項になります。2015年版以前の版の 規格の附属書にはISO14001とISO9001の対比表がありました。 直近の旧版であるISO9001:2008 の附属書A"表A.2 ISO14001: 2004とISO9001:2008との対比表"にて、ISO14001の"4.4.6運用 管理"(2015年版では8.1項)は、ISO9001の"7. 製品実現" (2015年版では8章)の全ての箇条に対応するとされていました。 ISO9001の8章は、営業、設計・開発、調達、製造・サービスの 提供、検査、出荷などの直接部門のプロセスに関する要求事項 です。

環境管理の運用プロセスについては、組織により様々な管 理体制がとられています。工場などでは、環境管理を専業とす る部署が設けられていることもあります。製造部門の業務に環 境管理が含まれている組織、総務部門などが全社の共通設備 などの管理を担当していることもあります。また、特定の部門に 限定されない、全従業員で取り組む環境管理活動は殆どの組 織に存在するはずです。

ISO9001の8章は箇条8.1~8.7と多くの要求事項が規定され ているのに対して、ISO14001の8.1は1箇条のみですが、その 要求事項は組織が具体化するものと解釈しています。規格に は、「6.1及び6.2で特定した取組みを実施するため」と規定し ていますが、6.1は"リスク及び機会への取組み"、6.2は"環境 目標"であり、ここで計画された"取組み"や"改善活動"を実施 することが箇条8.1の要求事項です。"取組み"には維持管理 活動も含まれます。組織の環境側面からの影響の質や量、順 守義務等は組織毎に異なり、それぞれの組織の状況に応じた 管理が特定・実施されていることが重要となります。

部門毎の審査では、先ずは、その部門の業務内容や環境管 理での責任範囲、他部門との役割分担などからお聞きし、部 門に関連する環境側面の管理状況を確認しています。



審査員リレーエッセイ ⑦

From

奈良県北葛城郡

薮田 勝

やぶた まさ

Profile

専門分野: ISO 27001 · ISO 9001 · ISO 14001 - 情報処理

経 歴:株式会社日立製作所 関西支店、株式会社ジェイ エス キューブ、有限会社ジー・エス・シー、インターテッ ク審査員(現職)



審査員からのエッセイをお楽しみください。

「健康第一で」

日頃、審査を担当させていただいておりますお客様にはお世話になり、またご協力いただきありがとうございます。

小生、情報処理系が専門分野のため、 主にISMSの審査を担当させていただいて おり、時折QMSとの統合審査も担当して います。ISMSはQMS、EMSと異なり附属



書Aに「管理策」があり、この管理策の理解と組織への適用に2005年版の時から苦戦続きでした。この管理策

の取扱いは難しく、コンサルティングにならないように注意しながら組織の理解と納得が得られるように努めています。新たにISMSを導入される組織様を担当することになった節には、このスタンスを変えることなく審査をしていく所存で、皆様のご理解とご協力をお願いします。 私の健康法は、太腿を地面と平行になるように膝を曲げて7秒間静止する「静止スクワット」が有効で、これを1日5セット行い、基礎代謝量を増やしダイエットする方法です。これからも健康第一にしながら、審査活動を続けますので、よろしくお願いいたします。

連載「環境とISO14001」®

「TCFD提言による気候関連報告」

地球温暖化の被害は年々過酷になり、世界の企業は二酸化炭素の排出抑制と被災リスクの対応に取組み始めています。その様な中で金融安定理事会の下に設立された「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」は2017年に最終報告としてガイドラインを提言しました。

■「TCFD 提言」とは

付表に示す4項目の情報開示が要求されています。それらは気候変動の影響によるリスクと機会を事業戦略へ展開し、財務上の影響も把握可能な仕組みです。気候変動リスクは以下の2種類が記載されます。

- ・物理的リスク:気温上昇など**慢性的に増大するリスク**と洪水など**突発的リスク**
- ・移行リスク:排出削減への不対応や新技術への対応遅れにより利害関係者の懸念が増加する低炭素社会への**移行リスク**

気候変動による機会は気候変動の緩和適応による経営改革の成果として現れ、「資源の効率的使用」「エネルギー源の多様化」「改良製品の上市」等で、これらをまとめてレジリエンス(強靱化)の向上を得ます。

■ シナリオ分析

シナリオ分析とは将来の気温上昇が自組織に

もたらすリスクと機会を予測し、それに基づいて対応策や戦略を策定することです。 TCFDは付表の「戦略」の策定の際に、1.5℃に抑えるシナリオを含む2つ以上のシナリオで実施することを求めています。

今後の気候変動は今世 紀半ばまでは増大が続く

予想ですので、安易な予測は避け、国連気候変動政府間パネル(IPCC)のシナリオを参照するべきでしょう。2021-2022年に発表されたIPCC 第6次報告に1.5℃目標に対応する「SSP1-1.9」、3~4℃上昇に対応する「SSP3-7.0」のシナリオが載っているので利用できます。時間軸については2030年と2050年を設定すると良いでしょう。

■ TCFD提言の主流化

組織の環境・社会的責任活動(ESG)の開示の枠組みを提供しているCDP、GRI、IIRC等の国際機関はTCFD提言に従うことを明言しているので、気候変動関係の活動情報の開示はTCFD提言の様式に統一されるのは確実です。日本政府の対応も早く、2018年には環境省

環境主任審查員 郷古宣昭 Nobuaki Goko

付表 TCFD 提言の4要素 ガバナンス 気候関連リスク・機会に関する組織のガバナンス (取締役会による監視体制、経営者の役割) 戦 略 気候関連リスク・機会 (短・中・長期リスクと機会、事業・戦略・財務計画への影響) (2℃以下を含むシナリオ分析による戦略のレジリエンス) リスク管理 気候関連リスクの選別・管理・評価 (気候リスクの選別・管理・評価プロセス) (気候リスク管理プロセスの組織総合リスク管理プロセスへの統合) 指標と目標 気候関連リスク・機会の評価・管理の指標・目標・実績 (使用燃料、使用電力、供給者からの温室効果ガス)

と経産省がTCFD提言に賛同を表明し、国内 向けのガイダンスも策定しています。更に、民 間の動きも活発で2019年には「TCFDコンソー シアム」が設立されています。また、東京証券 取引所はプライム市場に上場している企業に TCFD提言と同等の情報開示を求めていること からもTCFD提言による情報開示の広がりは進 むように思われます。

最後に、TCFD提言による情報開示、特に二酸化炭素の排出量や削減量等はサプライチェーンにも及ぶこと、従って部材・部品供給者(上流)からの情報確認と納品先顧客(下流)からの調査依頼もあり得ることを覚えておくべきでしょう。



カクシン・センイ・カンパニー

丸井織物株式会社 (ISO 9001:2015、ISO 14001:2015、テキスタイルエクスチェンジGRS認証登録)

岡島彩 経営企画室



本社(石川県鹿島郡)

当社は、「世界 に飛躍するカクシ ン・センイ・カンパ ニーを目指しま す。」を長期ビジョ ンに掲げ、「衣料 事業」「産業資材

事業」「IT・新規事業」を領域として、従来の繊維ビジネスの 枠を超える新しいビジネスモデルの創造に挑戦しています。 ISO9001·ISO14001:2015に加えて、2019年、テキスタイル エクスチェンジ・GRS(グローバル リサイクルド スタンダード) 認証を取得しています。同認証は、環境に配慮した繊維 素材の普及啓蒙を目的とするアメリカのNPO法人Textile Exchangeによって定められた国際的な基準で、リサイクル 含有物、加工流通過程管理、社会および環境慣行、およ び化学規制の第三者認証の要件を設定しています。社

会や環境に配慮しり レーサビリティーの 整備が確立された生 産体制であることが 確認されました。

「持続可能な社会」 の実現に向けて、世

界中でさまざまな活動が行われて いる現在。「豊かで健やかな社会 の実現に貢献します」をサステナビ リティ・ビジョンと設定している私た ちは、このビジョンを中期経営計画





「NS-300」に反映させ、人と地球環境の課題解決に向けて 事業への落とし込みを実践していきます。

https://www.maruig.co.jp/

北海道から、暮らしの豊かさを届けたい

株式会社フイッシュランド 眼鏡事業部加工センター (ISO 9001:2015 認証登録)

本社加工センター 上田 義昭



当社は、1968年、旭川にて 釣堀番外を創業し、釣堀事業 を展開しました。1974年、拠点 を札幌に移し、2012年に眼鏡 事業(ドクターアイズ)を認証 範囲としたISO9001を認証取 得しています。人生に幸せを 届けたい。この思いからスター トした釣具事業ですが、同じ 想いで現在では宝石事業、眼 鏡事業、介護事業等様々な事 業を展開しています。

眼鏡のドクターアイズは、全国で70店舗以上を、北海道 から九州まで出店拡大中です。眼鏡事業部加工センター では、各店舗から依頼された、眼鏡の組立てと眼鏡用レン ズの加工業務を行っています。加工センターの品質向上 がISO9001取得目的の一つでしたが、導入により品質を 大事にする意識が社内に定着しました。今後も、ISOを積 極的に活用し改善に繋げていきたいと思っています。

創業から現在まで私たちフイッシュランドグループは、 常にお客様の暮らしを豊かにしたい。その思いで歩んで

きました。今までも、これ からも、その思いは変わ ることなく、生まれ育った ここ、北海道から全国に 向けて、お客様の笑顔を ご提供していきます。



http://fishland-group.com/ https://www.dr-eyes-megane.com/ (ドクターアイ)



年の干支は、癸卯(みずのとう)。『癸』は十干の最後にあたり、生命 や物事の終わりを意味するとともに、新たな始まりが生まれようとして いる状態を、『卯』は茂るの意味から草木が地面を覆うようになった状 態を表すといわれています。

この『卯』の字の形が示す意味にはいくつかの説があるといわれ、同じ形のも のを左右対称に置いた様子から価値が等しいものを交換するという意味があり、 貿易の貿の上半分に「卯」の字を使う所以といわれています。他に「卯」が入る 漢字に「昴」がありますが、これは、卯の方角(=東)にある星を、太陽系を表す 「日」と方角の「卯」を組み合わせて表したもので、冬の星座の牡牛座にあるプレ アデス星団の日本名「昴(すばる)」のことになります。 昴は、実際には100~200 個ともいわれる星の集団ですが、肉眼では6つほどの星が見えることから「六連 星(むつらぼし)」ともいわれており、自動車メーカーSUBARU(スバル)のロゴ マークにも使われています。SUBARUは、その前身である富士重工業が、旧中 島飛行機の系列会社5社を吸収合併して6社を統合したことに因んで名付けられ たものだそうですが、自動車の名前に和名が使われたのはスバルが最初だそう です。「卯」には、左右に開いた門を表したとされることから、万物が冬の門から 飛び出る、時代を切り開くという意味もあるそうですので、つながる気がします。

ちなみに、昨年の大河ドラマの主要人物、源頼朝・義経兄弟、またその父の義 朝は卯年生まれで、まさに時代を切り開いた人物です。そして、その大河ドラマ が始まった1963年は、ひとつ前の癸卯にあたります。日本で最初の本格的連続 テレビアニメ「鉄腕アトム」の放送開始や世界初のインスタント焼きそば「日清焼 きそば」の発売もこの年でした。さらにもう一つ前の癸卯にあたる1903年には、 ライト兄弟が人類初の動力飛行に成功し、空への飛躍の第一歩となりました。

今年は、ウォルト・ディズニー・カンパニーの創立100周年にあたるそうですが、 ミッキーマウスの原点といわれるキャラクターをご存じでしょうか?オズワルド・ ザ・ラッキー・ラビット(しあわせうさぎのオズワルド)というキャラクターで、卯年に はぴったりです。ウサギつながりでもうひとつ。世界初のトーキー(音声付き)長編 映画や世界初の全編カラー映画を手掛けた映画スタジオ「ワーナー・ブラザース」 も今年創立100周年を迎えますが、同社にもバッグス・バニーというウサギの キャラクターがいます。ウサギはその跳躍力から飛躍・向上を、足の速さから何 事もよい方向に速やかに進む象徴と言われています。まだ落ち着かない状況が 続いていますが、皆さま方にとりまして、健やかで新たなチャレンジや可能性に 溢れる年となりますよう心よりお祈り申し上げます。(参照・出典:WWFジャパン、 SUBARU、くらしのいいもの研究所、ディズニー、ワーナー・ブラザースHP)

研修コースのご案内

開催日程・開催地等、研修に関する詳細は弊社ホームページにて ご確認ください。(https://ba.intertek-jpn.com/study/)

審査員養成コース

審査員養成コースは、審査員を目指される方だけで なく、最近では企業様から、品質管理体制の改善や、 内部監査員のさらなるスキルアップを目指してご参加 いただくことが増えております。業務改善や力量向上 を目指している皆様のご参加をお待ちしております。

■ ISO 9001 (5日間) /ISO 14001 (3日間) /ISO 45001 (3日間) ※ISO 14001/45001の3日間コースは受講要件がございます。 詳細は弊社ホームページにてご確認ください。

開催地 東京(弊社東京事務所)

- 日 程 ●ISO 9001···3/24 (金)~28(火)
 - ●ISO14001····5/20 (土)~22(月)
 - ●ISO45001···6/17 (土)~19(月)

ISO22000 内部監査員養成コース

これから内部監査員を目指す方、すでに内部監査員でさら なるスキルアップを目指す方、どなたでも受講いただけます。

開催地 東京(弊社東京事務所)

日程 3/9 (木)~10(金)

各種オンラインセミナー好評開催中! 各規格(ISO9001/ISO14001/ISO45001/ISO27001等) の内部監査員養成コース及びISO14001を活用した SDGsセミナー等を開催しております。また、従来の講師 派遣型セミナーもオンライン対応可能です。

*弊社ホームページよりお申込みいただけます。FaxまたはEmailでのお申込みの場合は、ホームページより申込書をダウンロードいただき、必要事項をご記入の上、ご送付ください。



ISO 22000 内部監査員養成コース(オンライン)を受講して

ISO22000: 2018 内部監査員養成コース (2022年10月オンライン) 受講

株式会社ニチレイフレッシュプロセス 品質保証部主任 鹿島 さくら

弊社では一般消費者向けの食肉アウトパック商品を製造してお り、2017年12月にはFSSC22000を認証取得し、その後、認証継 続しております。

私は2022年より食品安全チームの一員となり、内部監査員とし て必要な知識を得るために、「ISO22000:2018 内部監査員養成 コース」を受講しました。

1日目は規格書の解釈について、2日目は内部監査について講 義と演習を交えて学びました。受講者が発言する機会が多く、緊 張感をもって受講することができました。

このセミナーで学んだ事は内部監査だけでなく、業務改善に必 要な知識や能力向上につながる内容でしたので、今後の業務に も活かしていきたいと思います。

インターテック・サーティフィケーション株式会社 https://ba.intertek-jpn.com/

東京事務所 〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-4-2 日本橋ノーススクエア TEL:(03)3669-7408 FAX:(03)3669-7410 E-mail:info.ba-japan@intertek.com 大阪事務所 〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原3-5-24 新大阪第一生命ビル5F TEL: (06) 6150-0571 FAX: (06) 6150-0575 E-mail: info.ba-osaka@intertek.com